

～みんなで考える感染症予防～ 小学校6年生 保健「病気の予防」教材

本教材は、感染症のしくみや予防方法を、クイズやグループワークを通して楽しく学び、児童が健康に関する情報を正しく理解し、自分の生活の中で感染症予防を実践する力を育むことを目的としています。

1. 教材の概要

単元(対象学年)	体育科(保健領域)「病気の予防」(小学校第6学年)
教材構成	スライド教材 : 感染症のしくみや予防方法をクイズやイラストでわかりやすく提示する授業用教材。 ワークシート(個人用) : クイズの答え、症状の意味、個人目標などを記入する児童用教材。 発表シート(グループ用) : 感染症予防の方法をグループで考え、発表内容を整理する教材。
準備物	PC、モニター(プロジェクター/スクリーン)、スライド教材、個人用ワークシート、グループ用発表シート

2. 単元目標

- 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、「病原体をなくす」「うつる道筋を断つ」「体の抵抗力を高める」などの方法があることを理解できるようにする。
- 病気の予防について、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。
- 学習したことを生かして、身近な生活におけるより良い予防の仕方について考え、表現することができるようにする。

3. 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
●病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、感染症予防の三原則 [①病原体の発生源をなくす ②うつる道筋を断つ ③体の抵抗力を高める]が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ●体の抵抗力を高める方法として、十分な睡眠、日常的な運動、バランスのとれた食事といった生活習慣と予防接種があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	●病原体が主な原因となって起こる病気の予防について、学習したことを活用して、予防の方法を考えたり、適切な方法を選んだりしている。 ●生活行動が主な要因となって起こる病気の予防について、学習したことを自分の生活と比べたり、関連付けたりするなどして適切な解決方法を考えている。	●病気の予防について、課題の解決に向けての話しあいや発表などの学習や、教科書や資料を調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組もうとしている。

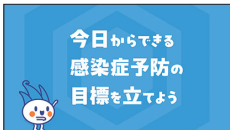
4. 授業での配慮事項

予防接種について扱う際は、接種の有無を児童に尋ねたり、接種を一律に勧めたりする扱いは避けます。予防接種は、感染症予防の方法の一つとして、体が病原体にすばやく反応するための“練習”であることを説明し、必要に応じて家庭で確認するよう促します。

5. 本教材の活用について

本教材は、授業のねらいや児童の実態、授業時間、学校の状況に応じて、スライドの順序や使用枚数を適宜調整して活用できます。すべてのスライドを使用する必要はなく、授業内容に合わせて一部のみを使用したり、必要に応じてスライドを追加・削除したりすることも可能です。

	学習活動	スライド	指導上の留意点
導入 1分	1. 前の学習の振り返りと本時のねらい ●「病気の起こり方」：病気は、「病原体」「体の抵抗力」「生活行動」「環境」などが関わり合って起こる。 ●本時のねらい 病原体が原因となって起こる病気、感染症のしくみを知り、予防するためにできることを考えましょう。		◆前時の病気の起こり方の学習を想起することにより、感染症を予防するにはどのようにすればよいのかという本時のねらいに繋げる。 感染症の予防
感染症の基本 12分	感染症を知る 2. 感染が広がりやすい行動 【クイズ1】教室の中で、「病原体が広がりやすい行動」はどれでしょう。 ①外遊びの後、手を洗わずに鼻をさわる ②窓を開けて空気を入れかえる ③口元をおさえずにくしゃみをする ④アルコールで消毒する ⑤石けんで手を洗う ⑥隣の席の人とおしゃべりする ●病原体が広がりにくい行動・・・②④⑤ ●病原体が広がりやすい行動・・・①③ ●場合によって病原体が広がりやすい行動⑥		◆イラストを提示し、「病原体が広がりやすい行動」を児童に数名発言させる。 ◆先生が答えと理由を確認し、ワークシートは後で完成させる。 ◆実際の写真を使用する場合は、特定の児童や学校が識別されないもの、または教材用に撮影した写真を使用する。 ①汚れた手から病原体が体に入る。 ③咳やくしゃみをする時は口元を抑える「咳エチケット」を心がける。 ⑥は通常は問題ない。かぜをひいていたり、咳やくしゃみが出たり、感染症の流行時にはマスク着用を確認する。
	3. 病原体の侵入経路 【クイズ2】病原体はどこから体に入るのでしょうか。 ●手についた病原体は目に見えないが、口・鼻・目から体の中に入る。		●ほかに傷口が病原体の入口になることもある。傷口は、水道水（流水）でしっかり洗い流すことを確認する。
	4. 感染のしくみ ●インフルエンザを例に感染のしくみを理解する。 【説明】病原体が体の中に入ると、体の中で何が起きているのかをインフルエンザを例でみてみましょう。 ●「感染」は、体の中で病原体が増えること ●厳密には感染と発症は区別される。	 感染…体の中で病原体が増えること	●スライドの流れ ①インフルエンザウイルスが体に入る ②体の中でウイルスが増える ③その結果、咳や熱などの症状が出る ●本教材では、小学生の理解に合わせ、感染から発症を一連の流れとして扱う。
	5. 症状の意味 ●咳や熱、鼻水などの症状はつらい。症状の意味を考える。 【発問】このイラストは、インフルエンザなどの感染症にかかった時に現れやすい症状です。これらの症状は体が何をしているサインでしょうか。 発熱・・・病原体が活動しにくい環境をつくる 咳やくしゃみ・・・病原体や異物を外に出そうとする 鼻水・・・鼻の中のものを流し出そうとする ●症状は、体が病原体をやっつけようとしているサイン。体が病原体に対抗するための反応や環境づくりでもある。		◆ここで時間をかけるとグループワークの時間を確保できないため、挙手を促し、ワークシートの個別記入の時間は設けない。 ●咳やくしゃみは、体が病原体や異物を外に出そうとする反応である一方、周囲に広げることがあるため、咳エチケットが大切であることに触れる。 ●ほかに食欲不振や眠気の症状は、体が休息を必要としているサインでもあるため、無理をせず休むことも予防につながることを確認する。

	学習活動	スライド	指導上の留意点
グループワーク・発表 20分	6. 感染症予防の三原則 ● 感染症を知ると、感染症にかからないようにする「予防」が大切とわかる。 【グループワーク】感染症予防の3つのポイントをヒントに、どうしたらインフルエンザなどの感染症を予防できるかを考えましょう。 ● 予防のポイントとワークシート記載例 ● 複数のポイントに当てはまる具体策もある。 ● 3つのポイントと主な具体例 ① 病原体をなくす：感染源対策 手洗い、消毒・清掃、健康観察、体調不良時は無理せず休む、感染者の隔離・出席停止など ② うつる道筋を断つ：感染経路対策 換気、マスク、咳エチケット、手洗い、消毒・清掃、人込みを避けるなど ③ 抵抗力を高める：感染しやすい人の対策 睡眠・休養、栄養、運動、予防接種など ● 手洗い：爪の間や指先まで洗い、清潔なハンカチで水分をふき取るなどを指導する。	   	● 感染成立には「感染源（病原体）」「感染経路」「感受性宿主（感染症にかかりやすい人）」の3つの要素がそろう必要がある（感染症成立の三大要因）。 ● 3つのうち、どれかひとつでも取り除くことができれば、感染症を予防できる（感染症予防の三原則）。 ◆ 複数のポイントに当てはまる具体策があるため、分類の正解にこだわりすぎない。 ◆ グループワークの進め方 1. 3つのポイントを確認（2分） 2. 各自でインフルエンザの予防行動を考えワークシートに記入する（5分） 3. 各自の予防行動をグループで共有し、発表シートに整理する（8分） 4. グループ発表（3分） 5. 発表後のまとめ（2分） ● 代表数グループの発表として、残りは掲示・共有に回すと時間内に収まりやすい。
生活習慣 6分	7. 体の抵抗力を高める方法 ● 感染症は、病原体の侵入を防ぎ、病原体に対する体の抵抗力を高めることで予防できる。 ● 体の抵抗力を高める方法には、休養・睡眠、栄養・食事、運動と予防接種があると確認する。 睡眠・食事・運動の3つを整えることが大切です。 【休養・睡眠】午前中に眠くならないよう十分に眠ること。 【栄養・食事】自分の体に合った食事でバランスよく栄養をとること。 【運動】遊びや運動で毎日あわせて60分程度体を動かすことを目安にしましょう。 暑い時期は、水分補給と休息も大切です。 【予防接種】予防接種は、本番に備えて体に練習をさせておくしくみです。予防接種を受けると、体を守る力が病原体の特徴を覚え、本物の病原体が入ってきた時に、体を守る力がすばやく働き、病原体を体の中で増やさないようにします。	     	◆ グループ発表で、予防接種の言及がなかった場合は、生活習慣のほかに予防接種も体の抵抗力を高められると説明する。 ● 睡眠時間には個人差があるが、できれば8時間以上を確保することが望ましい。 ● 午前中に眠気を感じる場合は、睡眠時間が不足している可能性があるため、生活リズムを見直すきっかけとして扱う。 ● 「好き嫌いをしない」といった表現は避け、体質やアレルギー等にも配慮して必要な栄養をとることの大切さを伝える。 ● 運動：体を動かすことは、体力をつけることや生活リズムを整えることにもつながる。 ● 暑さが本格化する前の春ごろから少しずつ体を暑さに慣れさせることも大切である。 ● 予防接種については、接種の有無を児童に尋ねたり、接種を一律に勧めたりしない。感染症予防の方法の一つとして扱う。
まとめ 6分	8. 今日からできる感染症予防の目標 ● 本時の振り返り ・ 感染症予防には3つのポイントがある ・ 体の抵抗力を高める方法には、正しい生活習慣や予防接種がある ● 目標をたてる ・ 今日の学習をもとに、みんなが今日からできる感染症予防をきめよう。 ・ 個人目標とともに学級目標を決められるとよい。		◆ 個人目標は、児童が自分の生活に合わせて無理なく実践できる内容にする。家庭の事情や体調、接種状況に関わる内容を強制しない。